

## Ⅲ デザインパターンに応じたデザインのポイント

## デザインのポイントの読み方

### デザインパターンの大分類

### 1. 歩行者優先空間



フランシスコ・マデロ通り(メキシコ・メキシコシティ)

### デザインパターンの小分類

- デザインパターン 1-1 歩行者モール
- デザインパターン 1-2 歩道拡幅
- デザインパターン 1-3 まちなか広場
- デザインパターン 1-4 パークレット
- デザインパターン 1-5 オープンカフェ

#### 歩行者優先空間の整備のねらい

中心市街地や観光地において、安全で快適、かつ魅力的な歩行空間・滞留空間を整備することで、人々の交流、新たな価値や活動を創出するとともに、子供から高齢者まで誰もが安全に利用することができる道路空間を創出する。

道路整備を行う上では、目的やねらいをもって整備を行うことが重要である。

そこで、ここではデザインパターンの特徴と整備のねらいを整理した。

当該デザインパターンの整備前後のイメージを掲載した。

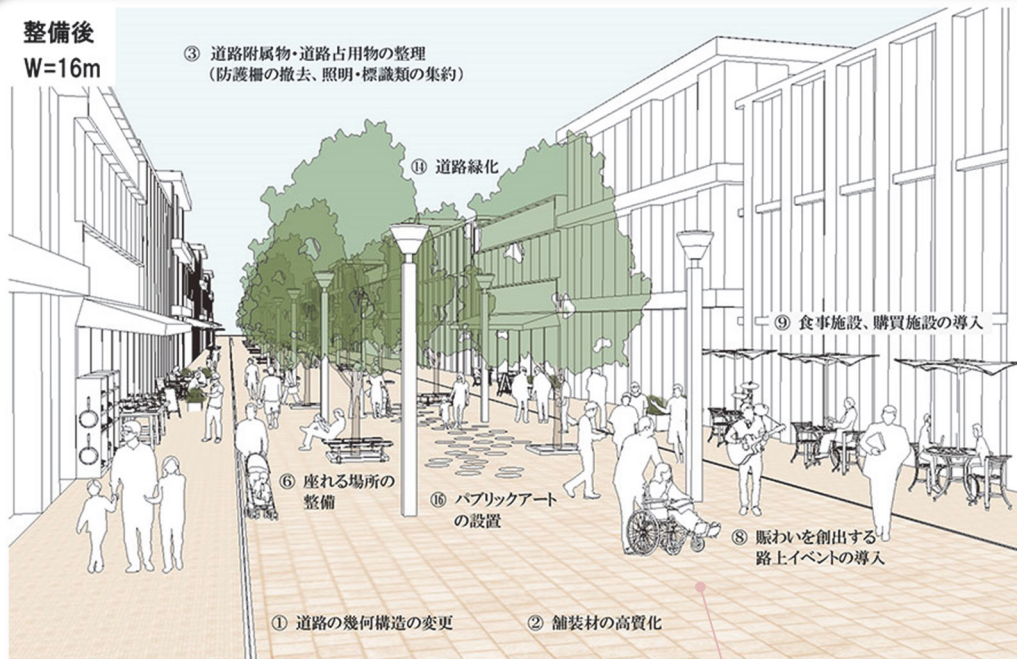
1-1 歩行者モール

1-1 歩行者モール

整備前  
W=16m



整備後  
W=16m



40

整備後のイメージには、整備前からの変更点を記載した。

デザインパターンを採用するにあたり、地域がどのような問題を抱えており、どのデザインパターンを採用するのが望ましいか判断することが重要である。そこで、ここではデザインパターンを選定する上で参考となる現状の問題点を整理した。

歩行者モジュール、車両休憩、食事、まち歩き、デザインパターンである。

### 本デザインパターンを適用しうる地区

#### ケースA

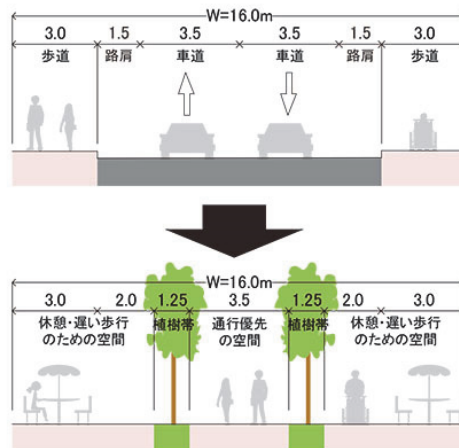
- 歩行者通行量が多く、歩道上が混雑している地区。
- 沿道駐車(荷捌きなど)が、商業活動や歩行者の安全で快適な通行の妨げになっている地区。
- 車道部を乱横断する歩行者があり、交通事故の発生が懸念されている地区。

#### ケースB

- 賑わいが求められる沿道の土地利用(例:商業街区、まちの中心部、観光拠点)であるにもかかわらず、人通りが少なく、活気が少ない地区。
- 道路空間再編を契機とした、新たな賑わいの創出が望まれる地区。

### デザインパターンのポイント

- 歩行者の快適な歩行空間と滞留空間をどのように確保するのか
- 歩きやすい道路構造(路面、勾配)を実現し、歩いたり、たたずんだりしたくなる環境をどのように演出するのか



総幅員 16mの空間再編例

### デザインパターン採用に必要な措置、条件

- 当該道路において自動車より歩行者を優先させる道路ネットワーク計画の策定と円滑な交通処理が可能となる交通規制及び交通運用が採用可能であること。
- 当該道路における自動車通行規制について沿道住民、交通管理者等との合意形成が図れること。
- 道路空間の魅力向上のために、沿道施設の再整備・利活用、リノベーションを並行して実施することが望ましい。

### 期待される効果

- 歩行環境の改善と滞留空間の整備による歩行者通行量や滞留行動の増加
- 自動車から道路空間を解放することによる交通安全の促進
- 歩行者通行量の増加による商業活性化
- 地域の魅力・快適性の向上

それぞれの地域で、どのようなデザインパターンを採用するのが望ましいか判断する必要がある。そのためには、地域の特徴(道路幅員、沿道土地利用、自動車・歩行者交通量)や交通規制や交通処理等に係る各種条件が明確になっていることが望ましい。

そこで、ここではデザインパターンを選定する上で考慮すべき措置、条件を整理した。

1-1 歩行者モール

道路空間の機能拡充や質の向上に向けて、留意することが望ましいデザインのポイントを、計画レベル・設計レベルに分けて整理した。また、さらなる質の向上を図る場合に、留意することが望ましいデザインのポイントを「空間の質の向上に向けたひと工夫」としてまとめた。

デザインのポイント(計画レベル)

自動車交通への対応方針

- 歩行者が散策し、たたずみ、休憩するための空間を創出するため、自動車交通のための専用空間を廃止し、歩行者空間に再配分する。



ネットワーク計画の変更

- 当該道路が分担していた自動車交通、自転車交通を他の路線へ振り分けるため、道路ネットワーク計画を見直す。
- 歩行者の回遊を促すため、当該道路の歩行者モール化とあわせて、歩行者ネットワークを見直す。

→ネットワーク計画の検討に関する詳細は、国総研資料第 1009 号「地域づくりを支える道路空間再編の手引き(案)」の p.89-127「2-2 空間デザインの検討におけるポイント」を参照



人通りが多い目抜き通りの外側1車線を仮設的な装置で滞留空間として転用  
11月20日通り(メキシコ・メキシコシティ)



島状の未低利用地を道路空間と一体となったまちなか広場としてリニューアル  
シベレス・ラウンドアバウト(メキシコ・メキシコシティ)